

普及現地情報



発信年月日:令和8年(2026年)6月10日

所 属 名:湖東農産普及課

番 号:F26006

発 信 者 名:川村 智、井上、緒方

「みおしずく」秋苗栽培実証結果報告を行いました

湖東地域では、「みおしずく」の秋苗栽培の実証を愛荘町で行っています。6月2日に開催されたJA 東びわこイチゴ部会研修会に部会員19名の参加があり、当課から「みおしずく」秋苗栽培の実証結果を報告しました。

現在、県育成品種「みおしずく」の苗(春苗)は、農業技術振興センターで生産・販売されています。しかし、令和10年からは、苗生産を民間種苗会社に委託することになり、秋苗と春苗の2回に分けて供給される計画です。従来のようにすべての苗を春苗で充足することが難しいことから、湖東管内でも11月に定植する秋苗への移行協力を生産者に依頼しているところです。

研修会では今後の民間委託による苗発注のスケジュールを改めて共有するとともに、昨年11月から湖東管内で取り組んでいる秋苗栽培について説明し、秋苗の草勢やランナーの発生状況について現物を展示して確認いただきました。

部会員からは「厳寒期の培養液濃度を高めると秋苗で多くの子苗が採取できるのではないか」、「株を作り、ランナーを多く発生させるためにも早めにハウス内を温める必要があるのではないか」など活発な意見交換が行われ、秋苗栽培への理解が深まりました。

湖東管内の「みおしずく」生産者の約半数の方が、秋苗栽培に挑戦する意向を示しています。今後も関係機関と連携し、「みおしずく」の安定生産と生産拡大に向け、支援していきます。



実証結果の説明に耳を傾ける部会員



秋苗(奥)と春苗(手前)の生育状況を比較